

議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和4年2月2日（水）	
招集（開催）場 所	岩美町役場 全員協議会室	
出 席 委 員	田中克美委員長、寺垣智章副委員長、橋本恒委員、升井祐子委員（遅参）、森田洋子委員、吉田保雄委員、田中伸吾委員、宮本純一委員、川口耕司委員、澤治樹委員、柳正敏委員（副議長）	
欠 席 委 員	なし	
議 長 の 出 席	あり	
職 務 出 席 者	濱野議会事務局長	
傍 聴 者	なし	
開 会	10時00分	
記 録 者	議会事務局 中島書記	
調 査 事 項	別紙日程表のとおり	
協 議 の 経 過		
日 程	発 言 者	内 容
開会	田中委員長	*起立、礼 始める。 足立議長あいさつを願う。
	足立議長	効率よくいこう。
協議事項(1)	田中委員長	きょうのテーマは12月定例会の議案審議の進め方の検証だ。これは議案審議の進め方を議論する前の3月議会までにしていたやり方を試行という位置づけで改めてやった。その他のところで、先日まちづくりの会の会長と事務局長に会ったのでそのことを報告する。それから私から今後の活動について提案させていただきたい。では12月議会の検証をざっくばらんに。誰か口火を切ってほしい。
		*升井委員10時02分入室
	宮本委員	ある人からちょっと上手になったと言われた。土山先生の勉強会がすごくよかった。活かされていたという評価をいただいたのでありがたかった。今後も続けてほしい。
	田中委員長	土山教授が次もやろうと言っていた。鉄は熱いうちにという言葉があるが、機会を持てれば、もう一度最後の議会となる6月議会に活かせるように一般質問の研修を行いたいと考えている。議案審議の進め方についてはどうか。
	柳委員（副議長）	以前から議案審議の進め方についての要望は未だに変わっていないが、今回従前の進め方で取り組んでみようということで。振り返ってみて、担当常任委員会ですまずそれぞれの見識に基づいて、集中した常任委員会としての責務を果たして、それをあえて全員協議会にて全議員で調整というか検討というか審査して、本会議に送り出すことは本当に効率的で能率的な議案審議の進め方であったと改めて思った。担当常

		任委員会、全員協議会、本会議の流れをもって、岩美町議会は今後取り組んでほしいと思う。一番スムーズで効率的で効果的で一番いい方法だと思っている。
	田中委員長	付け加えるが、担当常任委員会、全員協議会、本会議の流れでいっているが、従前行っていたのは担当常任委員会でも、全員協議会でも、とにかく本会議までに質疑をするという流れだ。それを共通認識にして議論しないと・・・。
	柳委員（副議長）	もう一点。常任委員会、全協においても質疑なのか改めての確認なのかその線引きが現実的に難しい。その人が質疑ではなく確認だと言え確認になる場合もあると思うし、その逆もあり得る。その部分も皆で調整、確認する必要がでてくる問題だと思っている。
	田中委員長	一般的には主観の問題ではない。質疑かどうかの議論は面倒なので、本会議、全員協議会の場合は議長だし、常任委員会の場合は委員長が仕切ると。その前に個々に質疑とはいうことを勉強してもらって、それで臨むということで。最後はそこを仕切る人に従うしかないと思う。
	宮本委員	委員会を運営する中で聞いてみたいことがあればというスタンスで発言してもらおうが、つつい熱が入り域を超えているのが現実だ。個々にお任せしないとそれは難しい。委員長が采配せよということではない。
	田中委員長	采配するしかない。
	宮本委員	できない。
	田中委員長	してもらわないといけない。質疑か質疑ではないかの仕分けが難しいという問題があるから、質疑をしないようにしようとか説明だけにしようということは決められないという議論にはしてほしくない。私は。
	柳委員（副議長）	分かるが・・・。質疑の範囲を超えれば当然制止されるのは当然だし、議長や委員長の責任で采配されるものだと思うし。そこを言っているわけではない。未だに今までの流れは事前審査ではないと思っている。
	田中委員長	他の方はどうか。
	寺垣副委員長	一番率直に思ったことはしっくりきた。今2期目でこの12月定例会のやり方しか知らなかったこともあるのかもしれないが、一番しっくりきた。こんなやり方なのかなという感想だ。
	橋本委員	事前審査かどうかを外して考えると、3年間従前のやり方でしてきたので、寺垣副委員長も言われたがしっくりきたという同じ感想だ。6月、9月のやり方は議論が深まったり、審査が十分にできたかといえば、なかなか十分ではなかった気がする。それを考えると12月はしっかり審査ができたと思う。個人的な感想だが。ただそこで事前審査の調整をどう

		思う。個人的な感想だが、ただそこで事前審査の調整をどうとるか判断がつかないところだ。
	森田委員	正直なところ何がどうかは分からなかったが、改めて常任委員会でしっかり議論していく、そして全協、議会という流れがいいのではないかなと思ったので、この流れでいってほしいという意見だ。以上だ。
	吉田委員	12月議会の状態でいってもいいのではないかなと思う。
	澤委員	非常によかったと思う。
	川口委員	事前審査につながるかどうかの部分で考えれば、色々議論はあると思うが、私も12月のやり方がしっくりきた。この特別委員会で勉強したり、色々な意見を聞かせていただいた中で質疑にあたるのかどうかは個々で検討していただきたいと思う。12月のやり方はよかったと思う。
	升井委員	同じ意見だが、12月のやり方が自然だししっくりきた。
	田中委員長	3月定例会に向けての常任委員会や全員協議会の日程はほぼきまっている。皆の意見を聞いたのは、きょう、その運営の方向を出さないといけないからだ。12月に試行した段階で6月、9月ではなく前の（やり方）でということで、きょうは聞くまでもなく結論がでていたのだが、試行という形でしたので皆の意見を改めて伺った。 どうするかをきょう議論するつもりはないが、皆が言う事前審査とのかかわりがある。それに関することを言えば、全協の協議事項は放映することになっている、常任委員会で質疑がなされれば、本会議では質疑がないこともあり得る。審議の過程が公開されるのを担保するために、今後は常任委員会の審議をどう公開するかを議論しないといけないと思う。きょうは、そのような課題に光を当てないといけないということ述べるだけにします。3月議会も12月議会と同じ流れで進めるということを本日執行部に伝えるということによいか。
	皆	よい。
	田中委員長	以上で協議事項（1）については終了する。よろしいか。
	皆	よい。
協議事項（2）	田中委員長	協議事項（2）その他だ。まちづくりの会から昨年4月に提言をいただいた。その後この特別委員会で皆に配り、議論はしないが目を通しておくようにと伝えてその提言については終わりにした。提言しているのに何もないと。その後の意見交換会もしたいと言っていたし、議会だよりも書かれているのに何もないと。しびれを切らして、どういうつもりか聞かせてほしいということでお会いした。まちづくりの会の方の言葉を借りると、公開は自分たちが想定していた以上に大きく変わった、それは結構なことだと。ただ他の課題に

については、何をしているか分からないと。私の方は「外に見える活動をしているわけではないので、何をやっているのか分からないのは当たり前だ。質問力を高めるとか、議会の内部にかかわることに取り組んでいる。議員の力をつけるとか政策提言の力をつけるということは、なかなか見えないのでそのとおりだ。」と。そこに力を入れていると話をして、「議会だよりでもこの間のよかったことを書いている。」と話した。提言については皆に読んでもらうことはしたが、今取り組む段階にきていないということを言った。この議論はできないと思ったし、できないからするつもりもなかったということ率直に伝えた。改選が近く、施策提言をする議会活動を今期で少しでも体験したいので、2月2日に開くこの特別委員会で私から提案したい旨を伝えた。また一般質問の力をお互いにつけることは3月、6月議会に実るように取り組んでいきたいと言った。かつて議会改革を2回行ったが、その時はやろうということにならなかった町民との意見交換会、一般質問についてレクチャーを受けたり、議論したりしたことを強調した。これは大きな進歩だと。私は本当にそう思っているし、議会だよりも書いたと。皆から見てテンポはゆっくりかもしれないが、違う人間が12人集まっていて、共通認識を持ちながら前に進んでいかないといけないので、それを大事にしてきたという話をした。改革は1期で終わる話ではないので、続けてするということも言っておいた。詳細は文字起こししているが、分かりにくい部分があるので手直しする必要がある。次の時に皆に渡したいと思う。以上のようなことで、まちづくりの会に議会の対応方について了解してもらった。

3月議会の議会だよりにより最初の頃に示した課題の進み具合を分かるように掲載し、町民の皆にお知らせすることも約束した。

次に私からの提案で特に常任委員長にお願いするが、総務教育常任委員会は公共交通について継続して取り組んでいるので、公共交通の問題について予算措置が必要なものがあれば、6月議会の補正予算に計上できるような施策提言をまとめる活動をしてはどうかと思っている。そこまでいかないならそれはそれでいい。改選後の議会につながるように、常任委員会の活動として体験した方がいいのではないかなと思う。産業福祉常任委員会は自分の質問を取り上げて申し訳ないが、難聴支援についてどうか。これらは政治的立場を問わないで取り組める措置だし、できるだけ早い方がいいし、全国に様々な具体的事例があるし。6月補正予算をにらんで難聴者支援の問題に取り組んではどうかと思っている。議案審議の流れのところでも書いたが、様々な町の施策を行う場合

		に関係者や住民の皆に執行部は色々な意見を聞く。その段階で議員や議会からも意見を聞くと流れの中に入れていた。執行部はそのスタイルができていますが、議会にはそれが無い。仕組みを議会側として意識的につくるということも頭にあってあの流れ図を作った。議会の施策提言につながる活動を議会の仕組みとしてつくるために、2つの常任委員会で施策活動を体験することをまず今期はやってみてはどうかとの思いで提案した。別の問題でもいいし、物理的に無理だというならそれはそれでいいが、できる範囲でと思っている。
	柳副議長	両常任委員長に今申した件を改めて次の開催の常任委員会で諮っていただくということにして、本日は終わりにしよう。
	田中委員長	もう終わった。どうするかということではなく、ただ話をしただけだ。その他あるか。
	田中委員長	はい。
閉会	田中委員長	以上で、特別委員会を閉会する。 *起立、礼 10時38分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する

議会活動の在り方検討特別委員会
委員長

田中克美

